学校支援

自治体名

岩手県野田村

学校数

小学校1校　中学校1校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

死者37名。村中心部の大半の家屋が全壊となり、復旧・復興作業を継続中。被害総額65億円超。全壊した図書館及び生涯学習センターが本年度再開するなど、徐々にではあるが日常を取り戻しつつある。仮設住宅：4地区188

＜取組名＞　～野田中学校　学校支援ボランティアの活動～

取組概要

実施形態（該当に○）	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	（連携している団体等・大学の名称）
	○			
実施主体・場所等	**コーディネーター数**	**ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ延べ人数**	**年間実施日数（回数）**	**活動場所**
	2			野田村立野田中学校　野田小学校

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
	○		○		（　　）
学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
			○	○	（　　）
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
					（　防災教育　）
家庭教育・保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
					（　　）
地域課題に応じた学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					（　　）

＜取組の内容を具体的に記載＞

村内では、小学校に1本部。中学校に1本部の学校支援地域本部を設置し、各学校の要望を聞きながら、ニーズに合った支援を行っている。

具体的な支援の内容は以下の通りである。

・教科の支援　～　家庭科の浴衣の着付け、調理実施雄の見守り支援

・環境整備　～　ボランティアによる法面の草刈り、老人クラブの校庭の除草作業、学校図書室の装飾

・キャリア教育　～　村内の11事業所と、久慈市内7箇所の職業体験活動

・体験活動の協力　～　生徒の落語公演会の観客としてのボランティア活動

野田中学校　家庭科授業支援（浴衣の着付け教室）より

取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

村内の中心部が壊滅状態になったことにより、地域の企業やボランティアから学校への従来通りの支援を受けることは、困難な状況となった。

新たに見えてきた防災や、ボランティア育成など、地域の課題に対応できる力を持った人材を、学校や生涯学習施設等で育成していく必要がある。

◇住民等からの要望・必要な取組

・被災により、村内の児童生徒に十分な体験の機会が提供されないということが無いようにしたい。

・従来から実施していた事業を継続的に展開することにより、日常活動を取り戻し、復旧から復興へと伸展して行く礎を築きたい。

・児童・生徒に、日本の伝統や地域の良さを発見して、村民としての誇りを持った人材を育成したい。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

・村教育委員会　～　企画立案及び事業全体の運営

・学校支援地域本部コーディネーター　～　各種ボランティアや企業等との連絡調整

・学校　～　事業内容の理解、活動場所の提供、児童生徒への周知

・各種ボランティア団体　～　実施に際しての様々な支援活動の実施

・教育事務所　～　情報提供及び他部局・他機関との連絡調整

◇取組の充実や課題解決のための工夫

・被災により組織が崩壊したボランティアの組織を、教育委員会や学校支援コーディネーターを中心に再構築し、新たな支援体制を確立した。

・被災後、国際的な交流や、地域からの伝統発信をする機会も増えたことにより、ボランティアの協力を得ながら、日本文化の良さを再確認する活動も、取り入れるようにした。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

中学校では、教科の支援や、キャリア教育、環境整備事業に重点をおいて取り組んでいる。

中でも、家庭科の授業に導入している浴衣の着付け教室は、地域のボランティア講師を招き、被災地支援で頂いた浴衣を活用して日本の伝統文化に触れる機会として、生徒だけでなく、地域の方々や保護者にもたいへん好評を博している。このように、導入した事業を通して、日常の授業ではなかなか取り組むことができない、地域の方々と連携した授業に取り組むことができていることが、大きな成果といえる。

◇課題や今後の展望

他の市町村の実践例を多く聞き、本村に導入可能な支援のあり方を広く調査し積極的に取り入れて、更に事業を推進させていきたい。